

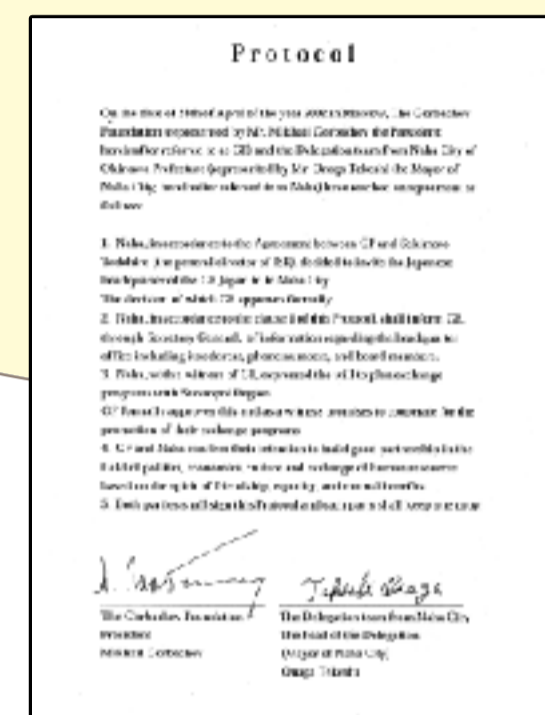


政治・経済・文化でパートナーシップ

那覇市にゴルバチョフ財団日本支部の誘致を合意

那覇市ロシア訪問団レポート 4月25日～5月1日

ゴルバチョフ氏の生地スタブロポリ市との交流も



合意書
モスクワにおいて2002年4月28日、ゴルバチョフ財団(会長ミハイル・ゴルバチョフ氏を代表者とし、これ以後 GF とする)と沖縄県那覇市使節団(那覇市長翁長雄志氏を代表者とし、これ以後 NAHA とする)は下記のとおり合意した。

1. NAHAはGFと関本忠弘氏(ISE理事長)との合意に基づいて日本GF本部を那覇に誘致する決定をした。
2. NAHAは合意書規約1に基づき住所、電話番号、理事メンバーを含む日本本部情報を事務局を通じGFに通知する。
3. NAHAはGFを立会人としてスタブロ地域との交流事業計画を行う意志を表明した。GFはこれを正式に承認し、立会人として交流事業推進協力を約束する。
4. GFとNAHAは、政治、経済、文化的交流の分野において友好、平等、互恵の精神で良きパートナーシップを築き上げることを確認する。
5. 両者はこの合意書に署名のうえ、コピーを一部ずつ保管する。

成田空港から10時間。下界には白銀の世界が続く。翁長雄志市長を団長とする、那覇市ロシア訪問団一行は広大なシベリアの大地を眼下にしながらモスクワをめざしました。

昨年11月、旧ソビエト大統領でノーベル平和賞受賞者のミハイル・ゴルバチョフさんを那覇市制80周年記念行事の一環として、那覇市にお招きしてご講演をいただきました。また、市役所訪問や識名園におけるレセプションなどでは多くの市民との交流が実現して強烈な印象を残しました。

モスクワで一行を迎え入れたゴルバチョフさんをはじめとするゴルバチョフ財団、それ出身地であるスタブロポリ市長などとの熱心な話し合いを通じて、ゴルバチョフ財団日本支部が那覇市に設置されることが合意されました。スタブロポリ市とも今後交流に向けての話し合いがなされました。財団はこれまでにドイツ、アメリカ、オランダ、イタリアに設置されていますが、いずれの支部も首都に設置されている中で、支部が那覇市に設置されるという逆転の発想が示されました。

モスクワでは、大統領府総務局、ロシア科学アカデミー、在モスクワ日本大使館などを訪れ、精力的にロシア事情などで意見交換を致しました。一方、世界的なチャイコフスキー記念モスクワ国立音楽院やポリシノイ劇場などにも足を運び、爽やかな春の中で香り高いロシア芸術に触れることができました。



クレムリン宮殿前の赤の広場。この広場で行われるセレモニーに世界中が注目していた。「赤」は「きれいな」という意味があるとのこと



覚書調印を終えて、右からゴルバチョフさん、スタブロポリ市長、我那覇市議会議長、翁長市長



世界的に有名なロシア科学アカデミーを訪れ、副総裁からご説明をいただいた



ゴルバチョフ財団日本支部を那覇市に設置することで合意して調印するゴルバチョフさんと翁長那覇市長



大統領府総務局では第一副局長からロシアに関する詳しいご説明をいただいた



ゴルバチョフ夫人のライサさんの墓参り。思わぬ「シーミー」になりました



レセプションで、チャイコフスキー財団のアンドレ・シェルバック総裁に沖縄の三線が贈呈された



ロシア正教の教会。頭が玉ねぎのようにになっている



羊の肉を売る市場のおばさんとアルバート通りの小さな楽師



チャイコフスキー記念モスクワ国立音楽院前のチャイコフスキー像

本庁市民課・国民健康保険課の窓口は毎日午後6時まで開いています。(土・日、祝日を除く)

国民年金課の窓口は昼食時間(12時～1時)も受付しています。